

# 平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

【No.1 教務関係】

岐阜県立八百津高等学校 学校番号 38

## I 自己評価

1	学校教育の目標	21世紀の社会を担うに必要な、自律の精神、実践を伴う行動力、創造性豊かな人間性の育成を目指す。				
2	評価する領域・分野	◇教育課程・学習分野				
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生の保護者アンケートで、本校に期待することの1番目（57.4%）に基礎学力の定着を挙げている。</li> <li>・校内には基礎的学力の定着の不十分な生徒が少なくない。</li> </ul>				
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学力の定着と向上を図る。そのため、授業の充実と活性化を図ると共に学習支援をきめ細かく行う。				
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科との連携</li> <li>・進路指導部との連携</li> <li>・学年部との連携</li> </ul>				
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 少人数指導の充実</li> <li>(2) 生徒の実態を踏まえた授業改善</li> <li>(3) 定期考査前のノート学習</li> <li>(4) 進学希望者への個別指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 各考査における欠点者の数</li> <li>(2) 生徒による授業アンケート</li> <li>(3) ノート学習達成状況</li> <li>(4) 入学試験の結果</li> </ul>				
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年の数学Iとコミュ英Iにおいて、2～4組の3クラスを習熟度別に4クラスに分けた。</li> <li>・1年に2回の授業公開週間を実施しながら、生徒に合った授業のあり方を考える。</li> <li>・0限補習の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 職員全体で組織的に取り組めたか。</li> <li>② 生徒の学力は向上したか。</li> <li>③ 生徒が自己の進路希望をかなえられたか。</li> </ul>	<p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p>			
11	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○少人数指導を充実させることで個々の生徒への対応を深めることができた。</li> <li>○0限補習、ノート学習を計画的に行うことができ、家庭における学習時間が一定時間確保できた。</li> <li>●公開授業週間を設けたが、文化祭後の平日だったので一般参観者は0人だった。本校の特色を生かし保護者や地域住民の方々と共に活動できる企画を考えたい。</li> </ul>			総合評価	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
12	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開週間に実施した生徒による授業アンケートを参考に、より分かりやすい授業が実施できるように工夫する。</li> <li>・学習内容の定着が遅い生徒に対しては、特に個人指導をきめ細かく実施する「寄り添い指導」をさらに続ける。</li> <li>・進学希望者の学力を伸ばすため関係職員連絡会を定期的に設け、家庭学習時間の確保とその充実を図る。</li> </ul>				

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年2月22日

### 【意見・要望・評価等】

- ・少人数指導について、今後も継続して行ってほしい。
- ・国公立大学を含めて進学指導の改善を行ってほしい。

# 平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

【No, 2 中高一貫教育】

岐阜県立八百津高等学校 学校番号 38

## I 自己評価

1 学校教育の目標	21世紀の社会を担うに必要な、自律の精神、実践を伴う行動力、創造性豊かな人間性の育成を目指す。	
2 評価する領域・分野	◇連携型中高一貫教育	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒及び保護者に実施したアンケート調査では「中高一貫教育を通して地域に貢献する人材を育成し、町の活性化に寄与している」に対する肯定的な評価が生徒80%（昨年度73%）、保護者88%（昨年度85%）となった。中高連携の成果が本校の活力を生み出していることを校報等を活用して更に広めていくとともに、生徒への自覚を促していきたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇「6年間を通して育てる」地域から学び、地域に貢献する人材の育成を目標に取り組み、学力の定着と豊かな人間性の育成を目指す。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>可茂地区連携型中高一貫教育校長会議</li> <li>可茂地区連携型中高一貫教育コーディネーター会議</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 組織相互の有機的な連携</li> <li>(2) 中高全職員研修と授業交流の充実</li> <li>(3) 町民と学校関係者向け広報活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 組織が効率よく機能したか</li> <li>(2) 重点目標の確認と授業交流の充実</li> <li>(3) 町民、保護者の意識の向上</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>校長会議、コーディネーター会議、評価委員会の連携強化と充実</li> <li>全職員研修による「6年間を見通した教育」の具体化を交流授業と公開授業を柱に進める</li> <li>校報「いま八百津高校では」での広報活動</li> <li>6年間を見通した指導法と交流授業の発展。チャレンジテストファイルの活用</li> <li>中高でのキャリア教育の取組を交流しながら「6年間を通した課題」の研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①組織が効率よく機能し、中高連携がより推進されたか。</li> <li>②中高教職員の授業交流を発展させ、継続的研修をすすめる。</li> <li>③町民及び学校関係者への広報活動が図れたか。</li> <li>④6年間を見通した教育実践。</li> <li>⑤中高のキャリア教育の交流。</li> </ul>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中高連携校長会及びコーディネーター会で今年度の方針をしっかりと決めるとともに、計画を具現化するために連絡を密にすることができた。</li> <li>○八百津中、八百津東部中2校の体験入学や互いの教職員による授業参観などの交流が盛んにできた。また両校のPTAの訪問により、八百津高校の実情を知ってもらい理解を深めた。</li> <li>○夏休みの学力養成セミナーを両中学校で行い、多くの参加があった。</li> <li>○連携開始頃からの夢であった野球部の夏の大会に、八百津中学校吹奏楽部が応援に参加することができた。</li> <li>○昨年度の課題であったデュアルシステムを中心としたキャリア教育の交流について、秋の高校一日体験の日に中学校3年生に対してデュアル説明会を実施できた。</li> <li>●交流授業におけるT1とT2の役割分担をさらに明確にしていきたい。</li> <li>●本年度新たに実現できた連携を継続改革していきたい。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高一貫教育の成果を「生徒の姿」として地域や中学校に広め、町民の支援や中学生とその保護者の理解を図り、入学志願者の増加に結び付けていく。</li> <li>・交流授業のT2の効果的な活用とチャレンジテストの活用などで、「学力の定着」を連携して進める。</li> <li>・中高の生徒会の交流や様々な行事の中で、生徒間交流をさらに進める。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年2月22日

【意見・要望・評価等】
・今年度、新たな取組があつて良かったので、来年度も新しい連携に取り組んでほしい。

# 平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

【No. 3 生徒指導関係】

岐阜県立八百津高等学校

学校番号 38

## I 自己評価

1 学校教育の目標	21世紀の社会を担うに必要な、自律の精神、実践を伴う行動力、創造性豊かな人間性の育成を目指す。	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめへの対応、体罰について、生徒の評価の伸び率が高いことから学校側の姿勢が生徒に伝わっているように感じられる。</li> <li>・服装・頭髪指導について、生徒・保護者双方の評価が下降しているため、社会で通用するマナーの指導において、引き続き進路指導部と連携して取り組んでいく必要がある。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇信頼と愛情を基盤とする厳しさに立脚した積極的な寄り添い指導を展開する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に生徒の情報収集・集約に努め、管理職に報告を素早くするとともに、その対策について検討する。そのための生徒連絡会を毎週行う。</li> <li>・学年主任が全員指導部に入り、学年の生徒指導の要となる。</li> <li>・必要に応じてすばやく集会・講話を行う。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 個人面談・保護者懇談・三者懇談を行う。</li> <li>(2) 遅刻防止指導・身だしなみ個別指導を行う。</li> <li>(3) 迷惑調査や i - c h e c k 検査を行う。</li> <li>(4) 人権講習会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習・生活状況の確認</li> <li>(2) 遅刻・欠席数などの集計確認 挨拶指導 身だしなみ個別指導の確認</li> <li>(3) 迷惑行為・いじめ行為の確認</li> <li>(4) 差別・暴力行為の確認</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 個人面談 (4、9月)・保護者懇談 (5月)・三者懇談 (7、12月) を行った。</li> <li>(2) 全校生徒を対象に定期的な身だしなみ指導を行い、違反者については個別指導を行った。</li> <li>(3) 迷惑調査・ i - c h e c k 検査と共に研修会を開催した。</li> <li>(4) 外部講師による人権講話。感想文記入。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①悩みはないか。</li> <li>②正しい身だしなみをしているか。時間を守っているか。</li> <li>③困っていることはないか。検査の結果に変化はないか。</li> <li>④相手の人権を尊重しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</li> <li>A B <input checked="" type="checkbox"/> C D</li> <li>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</li> <li>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</li> </ul>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめ・迷惑調査を年6回に増やし、個人面談や保護者懇談などを通じて、生徒・保護者の悩みを把握し、早期の解決に向けて指導することができた。</li> <li>○教育相談で専門家の助言を受ける機会が定期的であり、悩みや問題を共有でき、それにより根本的な解決につながるケースもあった。</li> <li>○携帯・スマホの使用禁止期間を設けて2年目。落ち着いて学習に取り組み、けじめとして定着してきた。</li> <li>●昨年と比べ遅刻・欠席者数が増加している。遅刻常習者についてはカウンセリング等、別の手段が必要と感じられる。</li> <li>●全体的な評価は生徒・保護者ともわずかながら向上しているが、逆に服装・身だしなみ指導の評価が下がったので、社会人としてのマナーを身につけさせるためにも周知徹底を図りたい。</li> </ul>	
	<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>	

12 来年度に向けての改善方策案

- ・遅刻・欠席が多い生徒の保護者への密な連絡体制。
- ・ネクタイやリボンを忘れて登校する生徒への自覚の促し。
- ・来年度から、女子は入学時に女性の教員でスカートの長さを測り記録する。その時に地毛で黒髪でない生徒には申告させる。

**II 学校関係者評価**

実施年月日：平成30年2月22日

**【意見・要望・評価等】**

- ・欠席・遅刻を減らすため継続した指導をお願いしたい。
- ・スマホの使用の仕方を、新入生に徹底してほしい。

# 平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

【No, 4 進路指導関係】

岐阜県立八百津高等学校

学校番号 38

## I 自己評価

1 学校教育の目標	21世紀の社会を担うに必要な、自律の精神、実践を伴う行動力、創造性豊かな人間性の育成を目指す。	
2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の評価からすると各家庭で進路について話がされているようである。</li> <li>生徒の意識に「自立に向けた指導がされている」と感じている者が増加しており、ガイダンスや面談、進路相談が生徒の進路意識を高めていると考えられる。</li> <li>あいさつやマナーに関する意識が高まっている。社会で通用するマナーの指導において、引き続き生徒指導部と連携して取り組んでいく必要がある。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇総合学習の時間を利用し、各学年に対し系統的でめざすところが生徒にわかりやすいガイダンスを実施し、進路決定に向けての意識を高める。</li> <li>◇進学・就職ともに入学後・入社後の厳しい環境を視野に入れ、あいさつの励行、学ぶ姿勢や意識を身につけさせる。</li> <li>◇企業訪問を継続し求人の確保に努力する。</li> <li>◇進学に対する情報を多方面から入手し、生徒の相談に広く対応できるようにする。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアアドバイザーの配置</li> <li>進路指導部と学年・分掌との連携</li> <li>外部機関と連携した進路行事の実施</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) あいさつの重要性を徹底</li> <li>(2) 積極的な企業訪問、求人依頼</li> <li>(3) 各種説明会への教員の積極的参加</li> <li>(4) 各種ガイダンス、テストの実施</li> <li>(5) マナー、あいさつ、自己表現力の啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 日常的にあいさつが身についているか。</li> <li>(2) 必要な求人は確保できたか。</li> <li>(3) 情報が的確に提供できているか。</li> <li>(4) 必要な情報を見つけ、自分の進路を具体的に考えられたか。</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>職員のほうから積極的に声をかけること。集会であいさつの大切さを示すことを心がける。</li> <li>キャリアアドバイザーと分担して企業訪問を実施し、また、各地で開催される企業との就職懇談会に参加した。</li> <li>1年生はチャレンジ講座につながるようにガイダンスを配置した。2年生は、より具体的に進路を考えられるように9月より月1回ペースで進学ガイダンスと社会人基礎力講座を外部講師を活用しながら実施した。3年生では進路希望実現のために面接や小論文の指導を全職員でおこなった。</li> <li>実力の診断や進学向けの模擬テストを計画的に配置した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①あいさつ、身だしなみの様子</li> <li>②求人件数、入社・入学試験の結果</li> <li>③学校アンケートの実施</li> <li>④模擬テストの結果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</li> <li>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</li> <li>A B <input checked="" type="checkbox"/> C D</li> </ul>

11 成果・課題	<p>○自然なあいさつのできる生徒が確実に増えている。本校の校風として定着させたい。</p> <p>○各種のガイダンスや面談をきっかけに進路について教員や家族と話す生徒が増え、具体的に考え始める時期も早まっている。</p> <p>○東海地域の地域経済の良さもあり、就職希望者が昨年より増加した中でも就職試験では初回の試験でほとんどの生徒が内定をもらうことができた。また本校に対する求人件数、求人人数とも昨年に比べさらに1割ほど増加した。</p> <p>○面接や小論文の指導に対する先生方の意識が高まっており、指導内容の充実も見られる。</p> <p>●進学に関して実力を十分に引き上げ切れていない。模擬テストの結果は低迷しており、それが生徒の挑戦意欲を弱め学習意欲を低下させてしまう悪循環を作り出している。</p> <p>●特に看護医療系への進学を希望する生徒が増加する中、入試に対応するための実力を1年次から計画的に育成するプログラムの整備が必要である。</p>	<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面接や小論文の指導は引き続き全職員で実施していく。</li> <li>・企業訪問を積極的に行い、情報交換するとともに安定した就職先の確保に努める。</li> <li>・進学や就職に関する情報を積極的に集め教員や生徒に提供していく。</li> <li>・外部講師の活用を推進し、多様な学習を生徒に提供していく。</li> <li>・進学希望者の進路実現のため、学習姿勢・学習時間・学習内容などを生徒の実情に合わせて具体的に1つ1つ指導していく。</li> </ul>		

## デュアルシステム

1 評価する領域・分野	◇デュアルシステム「企業実習」「企業実習基礎」	
2 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇「企業実習」受入協力企業の確保、拡大。</p> <p>◇1年生学年団、生徒、保護者への周知と実習参加者の募集。</p> <p>◇実習参加希望生徒の確定と事前指導。</p> <p>◇「企業実習基礎」の内容確定。</p> <p>◇全職員への周知</p>	
3 重点目標を達成するための校内における組織体制	デュアルシステム担当者を校務分掌上に配置。	
4 目標の達成に必要な具体的な取組	5 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 地元八百津町の事業所・企業への説明と協力要請。日常的な情報交換。</p> <p>(2) 1年学年団への資料提供、生徒向けガイダンス</p> <p>(3) 参加生徒への事前指導、受け入れ企業との面談</p> <p>(4) 「企業実習基礎」への外部講師の導入</p> <p>(5) デュアル担当者間の情報交換</p>	<p>(1) 参加希望生徒に対応できる企業・事業所を確保できたか。</p> <p>(2) 実習先企業との日常的な情報交換ができているか。</p> <p>(3) 実習希望生徒の数は確保できたか。</p> <p>(4) 実習に向けて生徒の意識は高まっているか。実習生のケア、フォローはできているか。</p> <p>(5) 「企業実習基礎」の内容が系統性をもって構成できたか。</p>	
6 取組状況・実践内容等	7 評価視点	8 評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「趣意書」「手引書」をもとに、担当者が企業や事業所を訪問し、協力要請と説明をおこなった。</li> <li>・4月当初より学年団や保護者向けの資料を作成し、学年団の指導を支えた。</li> <li>・参加希望生徒へのガイダンスを何回か行い、趣旨の徹底と心構えの育成等を心がけた。</li> <li>・協力企業・事業所との連絡を密にし、打ち合わせをしながら生徒との対応を進めた。</li> <li>・「企業実習基礎」について、外部団体と協力して系統的なカリキュラムの作成を進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①協力企業・事業所数</li> <li>②実習参加希望生徒の数</li> <li>③実習生徒のレポート、面談結果</li> <li>④実習の進捗状況</li> <li>⑤全職員への周知状況</li> </ul>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
<p>9 成 果 ・ 課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昨年度実習生の進路はすべて決定した。面接試験では十分に実績を語る事ができ、採用担当者からも高評価をいただいた。</li> <li>○地元八百津町の各企業・事業所、商工会、役場の意欲的な協力を得ることができている。特に企業の方々は趣旨を的確に理解しておられ、目的に沿った指導をしていただけている。また、巡回担当の教員との情報交換もうまくできており、学校と実習企業との連携がとれた。</li> <li>○1年生や中学生を対象に3年生の実習経験者が体験を語る機会を作った。実習の成果を校内で活用できたと言える。来年度の実習生は18名となった。</li> <li>●組織としてデュアルシステムを運用すること、全職員への周知が不十分である。組織だった運用を進める必要がある。</li> <li>●ガイダンスに出席しながら最終的に実習への参加を見合わせた生徒が約20名おり、その理由を精査し次年度以降の実習をより魅力あるものにする必要がある。</li> </ul>	<p>総 合 評 価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年2月22日

- ・来年度の実習生が19名と増えたことで、八百津高校の特徴としてデュアルシステムを外へ宣伝できることとなった。
- ・生徒や協力企業の意見を聞き、実習期間や実習先の範囲、部活動との兼ね合いなどシステム全体の運用の改善をする必要がある。

# 平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

【No, 5 保健厚生関係】

岐阜県立八百津高等学校 学校番号 38

## I 自己評価

1 学校教育の目標	21世紀の社会を担うに必要な、自律の精神、実践を伴う行動力、創造性豊かな人間性の育成を目指す。	
2 評価する領域・分野	◇保健管理、安全管理	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害時等の対策マニュアルの作成・周知とマニュアルに基づいた訓練の実施により、マニュアルの検証や整備に努める。生徒には集会または担任から、保護者へはすぐメールにより情報提供に努める。</li> <li>・健康診断、講話、職員研修会を活用する。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇日常と定期的安全点検を実施し、安全面の徹底を図ると共に、命を守る訓練を通して、生徒および職員の危機管理意識を高める。</li> <li>◇健康診断、各種調査をもとに生徒の健康状態を確実に把握し、連絡会を通し共通理解を図り、自主的健康管理の育成に繋げる。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断、体力測定、保健講話、命を守る訓練の行事等の企画運営</li> <li>・日常安全点検、定期安全点検</li> <li>・高校生防災リーダー、生徒保健厚生委員会の活用</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 健康診断、体力測定</li> <li>(2) 保健講話</li> <li>(3) 命を守る訓練、日常・定期安全点検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) アンケートの分析</li> <li>(2) 集計結果と改善の取り組み</li> <li>(3) 活動の取り組み方</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 健康診断、体力測定、各種事前検診</li> <li>(2) 保健講話</li> <li>(3) 命を守る訓練、日常・定期安全点検、掃除</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①実施率</li> <li>②アンケートの分析</li> <li>③アンケートの分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A B C D</li> <li>A B C D</li> <li>A B C D</li> </ul>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康診断は計画通り実施し、事後指導も保護者へ連絡が徹底できた。</li> <li>○保健講話は、性に関する講演会を実施し、医師による講話、助産師・看護師も含めた実験などを実施し知識面の充実もさることながら意欲的に参加をすることができた。</li> <li>○命を守る訓練では、年3回実施し1年生には非常災害時の下山(下校)訓練も他の行事と兼ね合わせ実施した。</li> <li>○高校生防災リーダーを1・2年生から選出し、文化祭における展示など校内に継続的な防災に関わる生徒の活動を実施するきっかけとなった。</li> <li>●全員掃除を行っているが、生徒の校内のきれいさには満足していないものの清掃活動や日常生活を通して学習環境を整わせるところまで行き届いていない部分も見られる。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習環境、清掃活動などの工夫・改善。</li> <li>・命を守る訓練内容の多様化、工夫。</li> <li>・保健講話の3年間のテーマ、テーマ設定、優先順位、結び付け方、連携</li> <li>・高校生防災リーダーの活動、八百津町との連携</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年2月22日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「命を守る訓練」は、大規模災害に向けて大切なことなので、今後も継続改善してほしい。</li> </ul>
---



# 平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

【No, 6 特別活動関係】

岐阜県立八百津高等学校

学校番号 38

## I 自己評価

1 学校教育の目標	21世紀の社会を担うに必要な、自律の精神、実践を伴う行動力、創造性豊かな人間性の育成を目指す。		
2 評価する領域・分野	◇特別活動		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・高校生活を良いものにしようと、特に行事に向けての取り組みを熱心に行い、クラスの仲間との絆を深めようとする生徒が多い。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒主体の行事運営		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・役割分担をはっきりさせ、担当教員が早い段階で生徒に指示や相談ができる体制づくり		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 生徒会、各種委員会の活性化 (2) 有志企画の募集（文化祭）	(1) 生徒アンケートの評価 (2) 取り組み過程・行事本番の生徒観察		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年に比べ、上級生の指導力・計画性が低く感じられた。体育大会も自分たちで作ってあげていくという気概が欠けていた。しかし、各担当の生徒は準備段階から自分の役割を把握し、的確に行動することができた。運営・後片付けも各委員会を中心にスムーズに行うことができた。</li> <li>・文化祭の有志団体も多く参加して盛り上がることもできた。準備・後片付けも積極的に行動することができ、生徒の満足度の高い文化祭が実施できた。</li> </ul>	①生徒の満足度 ②教員の視点	A B C D A B C D	
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○球技大会は生徒が主体的に動き、準備・運営・後片付け等順調に行うことができた。</li> <li>○体育大会は各係の生徒が自分の仕事を確実に行うことができた。</li> <li>○八百津高校主催のクリーン大作戦など各種ボランティア活動に積極的に参加することができた。</li> <li>○文化祭では有志団体が多く参加し、盛り上げることもできた。</li> <li>○文化祭の展示作品も時間をかけてつくった力作が多かった。</li> <li>●各種行事を行う際の約束事を守らせるのかを教え込むことが難しかった。</li> <li>●上級生の下級生に対する指導力を育成することが必要だと感じた。</li> </ul>		総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・上級生が下級生をきちんと指導できる意識を高める指導を行う。</li> <li>・行事の目的をしっかりと理解させ、考えて行動できるような体制をつくる。</li> <li>・文化祭をさらにレベルを上げるために採点方法を改善する。</li> </ul>			

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年2月22日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事を精選する中で、生徒が達成感を感じることができる行事を大切にしてほしい。</li> </ul>
--